

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（口腔外科学）

【単位数：1単位，授業19コマ，予備1コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

藤本保志 教授（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

2 教育目標

（1）ねらい（Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b）

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために，耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナルリズム」の涵養を図る。
- ② 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域疾患の最新の検査や治療を概説できる。

（2）学修目標

- ① 耳・鼻・咽喉頭の構造と機能を理解し，さらに個々の疾患の病態，診断，全身疾患との関連並びに治療の概略を理解し説明できる。
- ② 鼓膜所見，鼻内所見，咽喉頭所見を的確に指摘出来て，病態を理解し説明できる。
- ③ 聴覚検査，平衡機能検査の意義について理解し，検査結果を説明できる。
- ④ 音声障害，嚥下障害について理解し，その対策・治療を説明できる。
- ⑤ 頭頸部腫瘍の病因・病態について理解し，最新の治療法を説明できる。
- ⑥ 全身疾患に伴う耳・鼻・咽喉頭の変化とそれらの関連を判断できる。
- ⑦ 歯科口腔外科の立場から，構音・咀嚼機能に関する歯牙・顎関節等の役割について理解できる。

3 成績の判定・評価

（1）総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	全問多肢選択問題
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（2）合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

（3）再試験・再評価の方法

定期試験成績が60%未満の場合は，再試験を実施する。

（4）課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。これにて理解が不十分な項目について再確認を促す。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	香取幸夫, 日高浩史	中山書店 2020	最新の知見を解説, 写真と図が豊富。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
『新耳鼻咽喉科』改訂12版	野村恭也, 加我君孝	南山堂 2022	標準となる教科書。詳細に解説している。
病気が見える-耳鼻咽喉科	藤本保志他	MEDIC MEDIA 2020	図解・写真が多くわかりやすい。
頭頸部癌診療ガイドライン 2022	日本頭頸部 癌学会	金原出版 2022	世界標準の治療を知るための手がかりとして随時参照するだけでも有益である。EBM を学ぶ入り口としても手にとって欲しい。
小児急性中耳炎診療ガイドライン 2018	日本耳科学 会・他	金原出版 2018	
小児滲出性中耳炎診療ガイドライン	日本耳科学 会・他	金原出版 2015	
嗅覚障害診療ガイドライン	日本鼻科学 会	金原出版 2017	
前庭神経炎診療ガイドライン 2021	日本めまい 学会	金原出版 2021	
メニエール病・遅発性内リンパ水腫ガイドライン 2020	日本めまい 学会	金原出版 2020	
耳鳴診療ガイドライン 2019	日本聴覚医 学会	金原出版 2019	
急性副鼻腔炎診療ガイドライン 2010 追補版	日本鼻科学 会		
嚥下障害診療ガイドライン 2024	日本耳鼻咽 喉科頭頸部 外科学会	金原出版 2024	
音声障害診療ガイドライン 2018	日本音声言 語医学会・ 他	金原出版 2018	

6 準備学習（予習・復習）

- 講義内容の項目を予め, 教科書で確認しておくこと(1コマあたり15分)。
- 1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認し, 2コマ目以降の講義に臨むこと(1コマあたり15分)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが, 積極的な質問及び講義終了後の質問を歓迎する。

(2) 講義の内容

耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般にわたり, 基礎的な解剖や生理に始まり, 機能別・臓器別各論につなげる。